

【表1】外用薬の基剤による分類と機能

分類		基剤の機能		基剤の種類	外用薬(代表的な製品)
疎水性基剤	油脂性基剤		油脂性基剤 ↓ ↓ ↓ 保湿 滲出液の量 適正	白色ワセリン プラスチックベース	アズノール®軟膏 プロスタンディン®軟膏
	親水性基剤	乳剤性基剤 水中油型 (O/W型)	乳剤性基剤(O/W) ↓ ↓ ↓ 補水 滲出液の量 少	多種類の添加物による乳剤性軟膏	オルセノン®軟膏 ゲーベン®クリーム
乳剤性基剤 油中水型 (W/O型)		乳剤性基剤(W/O) ↓ ↓ ↓ 保湿 滲出液の量 適正	多種類の添加物による乳剤性軟膏	リフラップ®軟膏 ソルコセリル®軟膏	
水溶性基剤		水溶性基剤 ↑ ↑ ↑ 吸水 滲出液の量 多	マグロゴール など	アクトシン®軟膏 カデックス®軟膏 プロメライン軟膏 ユーバスタコーワ軟膏	

高橋慎一：外用薬―“これだけ知って”選択の基準.エキスパートナース2015;31(6):20.よりまとめた

【表2】褥瘡に用いられる外用薬の主薬の分類

商品名	主薬	薬理作用
抗菌効果		
カデックス®軟膏	カデキソマー・ヨウ素	抗菌効果と壊死除去効果を併せ持つ
ヨードコート®軟膏	ヨウ素	抗菌効果(滲出液を吸収し創面の湿潤保持)と潰瘍治癒促進効果
ユーバスタコーワ軟膏	ポピドンヨード・白糖	ポピドンヨードによる滅菌効果と白糖による創傷治癒効果
ゲーベン®クリーム	スルファジアシン銀	幅広い病原菌に有効。特に緑膿菌に強い抗菌効果
壊死組織の除去		
プロメライン軟膏	プロメライン	タンパク分解酵素
カデックス®軟膏	カデキソマー・ヨウ素	抗菌効果と壊死除去効果を併せ持つ
(ゲーベン®クリーム)	水中油型(O/W)乳剤性軟膏	(基剤の保水効果により壊死組織が融解)
肉芽形成・上皮化促進		
アクトシン®軟膏	ブクラデシンナトリウム	肉芽形成と上皮化促進
プロスタンディン®軟膏	アルプロスタジール アルファデクス	肉芽形成と上皮化促進
オルセノン®軟膏	トレチノイントコフェリル	肉芽形成促進
リノラップ®軟膏	リゾチーム塩酸塩	肉芽形成と上皮化促進
ソルコセリル®軟膏	幼牛血液抽出物	肉芽形成促進
フィブラスト®スプレー	トラフェルミン	肉芽形成促進
その他		
亜鉛華軟膏	酸化亜鉛	抗炎症作用(むしろ基剤の保護効果が重要)
アズノール®軟膏	ジメチルイソプロピルアズレン	抗炎症作用(むしろ基剤の保護効果が重要)
イソジン®ゲル	ポピドンヨード	滅菌効果

高橋慎一：外用薬―“これだけ知って”選択の基準.エキスパートナース2015;31(6):21-22.を元に作成

褥瘡に用いる外用薬にはさまざまな種類があり、創（そう）・傷口のあるケガのこと。傷口のないケガは傷（きず）という状態に合っています。適切な使い方をする必要があります。



薬剤師 渡辺睦子

外用薬は主として創（そう）・傷口から必要で、湿潤環境は滲出液（しんしゅつえき）・創（そう）から生じる組織間液（しじみだ）の存在が前提となります。すべての褥瘡がステロイド、抗生物質など薬の効果を発揮します。一方、基剤には薬効はありません。主薬を溶解し、調節が不可欠となります。

褥瘡と外用薬

医療最前線

【図1】外用薬の構成（主薬と基剤）

基剤

主薬

【図2】基剤の分類

疎水性基剤

油脂性基剤

親水性基剤

乳剤性基剤

水中油型 (O/W型)

油中水型 (W/O型)

水溶性基剤

保湿

補水

保湿

吸水

O : oil
W : water

■主薬の特徴と種類

①抗菌効果
滲出液が多い場合は感染、炎症を伴うことがあるため、抗菌性をもつ吸水性薬剤を用います。

②壊死（えし）…体の一部の細胞が死んだ状態。組織の除去。壊死した組織は、硬いものから柔らかいものまで、深さや部位によつてさまざまです。硬い壊死組織は外科的デブリードマン（壊死組織を外科処置などで取り除くこと）を行い、それが難しいときは薬剤で軟化してから除去し、創の清浄化を行います。

③肉芽形成・上皮化促進
創の清浄化を行った後は肉芽形成を促進して創を修復する段階に入ります。適正な湿潤状態へ導き、肉芽組織が十分に増生すれば自動的に上皮化へ移行します。

褥瘡の治療で用いる外用薬は軟膏、クリーム、散剤などがあります。薬剤を構成する成分のうち基剤が多く占めるため、基剤が創の適正な湿潤環境保持にどう働くかがポイントとなります。

④その他
紅斑（こうはん）…毛細血管の充血で皮膚にできる赤い斑点、水泡、びらん、潰瘍などには、創面保護効果の高い油脂性基剤の外用薬が適しています。

褥瘡に用いられる外用薬の主薬の分類を「表2」に示しました。

水と親和性の高い親水性基剤は乳剤性基剤と水溶性基剤に分けられます。水と油が乳化した乳剤性基剤はさらに、水中油型（O/W型）と油中水型（W/O型）に分かれます。水溶性基剤は水分を多く含むため、創の治癒には湿潤環境（傷口が乾いていない）が必要です。基剤は疎水性基剤と親水性基剤に分けられます。【図2】

疎水性基剤は油脂性基剤と水溶性基剤に分かれます。油脂性基剤は油分の中に水分が分散し、水溶性基剤は水分を多く含むため、創の治癒には湿潤環境（傷口が乾いていない）が必要です。基剤は疎水性基剤と親水性基剤に分けられます。【図2】